HamaMed-Repository
浜松医科大学学術機関リポジトリ
浜松医科大学
Hamamatsu University School of Medicine

Early enteral nutrition with arginine compensates for negative nitrogen balance in patients undergoing curative total gastrectomy

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 浜松医科大学 公開日: 2023-11-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岡本, 康子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/0002000050

論文審査の結果の要旨

胃癌に対する胃全摘術は、手術手技や周術期管理の進歩にもかかわらず、術後の合併症や体重減少が依然課題となっている。以前より飢餓状態からの適切な窒素バランスの回復にはアルギニンが重要であることが報告されているが、今回申請者は胃全摘術を受けた患者において、術後に早期経腸栄養としてアルギニンを強化した経腸栄養剤を投与した群と末梢静脈栄養のみの群を比較して、アルギニンを強化した経腸栄養剤が術後早期の窒素バランスを改善し、体重減少を抑制するか否かを検討した。

対象は浜松医療センターで 2010 年から 2011 年までに胃全摘術を受けた胃癌患者 19 名で、術後栄養管理として、静脈栄養単独群（PN 群）と、静脈栄養とともにアルギニン強化経腸栄養剤による早期経腸栄養投与群（EAN 群）に無作為に割付け両群を比較した。本研究は浜松医療センター倫理委員会（No.21-10）の承認を受け、患者全員から書面によるインフォームドコンセントを得て実施された。

12 名が PN 群に、7 人が EAN 群に割り付けられたが、両群で臨床病理学的背景に差を認めなかった。結果として術後血液検査での C 反応性タンパクやインターロイキン 6、プレアルブミン、アルギニン濃度の推移に両群で差を認めなかった。窒素バランスは両群ともに術後 1 日目でマイナスになり、PN 群では術後 7 日目までマイナスバランスが持続したが、EAN 群では術後 7 日目でプラスに転じ、有意に増加していた。術後 7 日目における体重のバランスは EAN 群でプラス傾向であったが、統計的な有意差はみられなかった。

本研究でアルギニンを多く含む経腸栄養剤を術後早期に投与することで、胃全摘術後の窒素バランスを早期に改善できる可能性があることを明らかにした点を審査委員会は高く評価した。以上により、本論文は博士（医学）の学位の授与にふさわしいと審査員全員一致で評価した。

論文審査担当者　　主査　竹内　裕也
　　副査　杉本　健　　副査　加藤　明彦